

# 原発反対アピール自粛要求

## 再び公開質問状提出

市民団体

県庁前での原発反対アピールの自粛を県から求められ、反発している市民団体は十日、西川一誠知事宛ての公開質問状を提出した。抗議の一環で、二週間での回答を求めた。



大川淳一郎課長(左)に公開質問状を手渡す石森修一郎さん(右)県庁で

回答を求めた。

県への公開質問状は四月に続いて二回目。県が三月三十一日に行った自粛要請で「快適な通行環境の確保」を理由にしているため、快適な通行環境の基準を「具体的に示すよう」求めた。福井城趾への観光客が多くなる桜の開花期のため、街頭行動への自粛を求めたのかなども確認する。

県庁でこの日、サ

ヨナラ原発福井ネットワークの石森修一郎さん(坂井市)が公開質問状を提出。県財産活用推進課の大川淳一郎課長は「検討する」と答えた。

市民団体などは、県公安委員会の許可を得た上で二〇一二年七月から県庁前での街頭活動を毎日続けている。自粛要請後も活動をストップしたことはなく、同ネットワークの若泉政人さん(越前市)は「県は『お願いしただけ』というが、表現の自由を抵触する行為」と県を批判している。

(尾嶋隆宏)

県に電話など26件ほとんどが批判的

問題表面化1カ月

県庁前での原発反対アピールを県が市民団体に自粛するよう要請した問題で、

問題が表面化した四月二十一日から一カ月間で、県に電話などで二十六件の意見が寄せられていたことが分かった。市民団体側の情報公開請求で判明した。ほとんどが県に批判的な内容だったという。

意見は、県財産活用推進課に電話、メール、ファクス、郵便などで寄せられた。意見を述べた人の名前や住所を除き、訴え・反応の内容や件数も情報公開請求で公開された。

市民団体側は「二十五件が県を批判する内容」とカウント。取材に対し、県側は「とらえ方の問題。苦情や批判は二十四件と思う」と説明した。市民団体によると、「福井県は良いイメージだったのに、悪くなった」という県外からの意見もあったという。(尾嶋隆宏)